

# 枝幸町におけるムカシトンボの初観察

村山良子

枝幸町文化財保護委員会 〒098-5823 北海道枝幸郡枝幸町三笠町1614-1

## 調査の経緯

日本固有種であるムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889) は、その名の示すとおり原始的な形質を備えていることから「生きた化石」とも言われている。本種は、北海道から本州、四国、九州に分布し、北海道内のほぼ全域に観察記録があるが、その生息地は限られている（広瀬・伊藤・横山, 2007）。

筆者はこれまで、道内に広く分布しているものの源流域のような溪流に棲み、早春に活発に飛翔するこのトンボを認識することは無かったが、特徴的な終齢幼虫である本種のヤゴ1個体を観察したので本稿にて報告する。

## 観察記録

筆者は、2011年5月28日に枝幸町南西部の歌登上徳志別、徳志別川にかかる「日の出橋」付近の川原にて植物観察と山菜採りを兼ね散策していた。川原の転石や土手を多少攪乱したところ、足元にヤゴがゆっくり歩いているのに出会った。その歩みは誠に遅く、捕食者から逃れられるものではないと眺めつつ写真(1.2.)を撮影した。その後、羽化する場所を筆者に阻害されて新たな適所へ必死に移動していくヤゴを見送った。

ここは徳志別川の中流域にあたり、早瀬の音高く周辺は豊かな河畔林に囲まれている。

北海道トンボ研究会会報 (Vol. 22) による本種の分布図では宗谷地方が空白である（北海道トンボ研究会事務局, 2011）。枝幸町歌登地区で確認されたのであれば宗谷管内で他に記録があっても不思議ではない。文献調査を行ったところ、2008年9月6日に枝幸郡中頓別町の頓別川にて2個体の幼虫が採取されており（倉西・室瀬, 2010）、今回の確認が宗谷管内で2例目であるこ

とが判明した。

ムカシトンボの幼虫は、冷涼な清流の石の間で生活し、その幼虫期間は7~8年にも及ぶと言われる。水中でも上陸しても匍匐前進で活動し、トンボ類中で最も特異な種であるとされる。

ムカシトンボの仲間は、日本、ヒマラヤ地方、中国黒竜江省で3種だけが確認されており、その遺伝子解析の結果、3種の差異はほとんど見られなかったとする見解が北海道大学と国際共同研究グループによって発表された（吉沢, 2012, 北海道新聞・日本経済新聞報道）。

氷期の生き残りともいえる本種は、温暖化や河川改修等の環境変化の影響を極めて受けやすい。ムカシトンボは良好な自然環境が維持されていることを示す指標昆虫であり、道北地方を代表する清流、徳志別川の環境が今後も守られていくことを願ってやまない。

## 謝 辞

本報告にあたり、日本野鳥の会十勝支部長である室瀬秋宏氏には貴重な情報と資料提供を賜った。明記して深く感謝申し上げます。

## 参考文献

- 倉西良一・室瀬秋宏, 2010; 北海道宗谷支庁におけるムカシトンボの初記録とモイワサナエの記録. 月刊むし469
- 広瀬良宏・伊藤智・横山透, 2007; 北海道トンボ図鑑. ミナミヤンマクラブ株式会社
- 北海道トンボ研究会事務局, 2011; 北海道トンボ研究会会報22
- 吉澤和徳, 2012; 日本を代表する「生きた化石」ムカシトンボの由来が明らかに. 北海道大学プレスリリース



写真1. ムカシトンボのヤゴ (徳志別川)



写真2. ムカシトンボのヤゴ  
(徳志別川)